

建築・都市



キーワード：人口減少、居留意識、災害復興

住環境整備に係る調査・計画策定支援（共同研究開発）

理工学部 住環境デザイン学科 准教授

稲地 秀介 INACHI Shuusuke

研究の内容

【機械学習を用いた小地域レベルでの土地利用シナリオ予測】自治体や民間による整備事業が、将来の土地利用に与える影響をシナリオとして予測するシステムを開発中。現時点では大阪湾周辺自治体（神戸／大阪／京都／和歌山）の都市部を対象に、250mメッシュ単位で、2000年から2020年までの実土地利用データに対して約80%の変化を面的に予測できている。今後、都市中心部、縁辺部、山村部などの特性を踏まえた高精度な予測モデルとするため、空き家の実態などについて自治体の協力が必要である。

【南海トラフ地震津波避難対策特別強化地域における「生きたまちデジタルアーカイブ」】甚大な津波災害が予想される漁村集落を対象に精密3Dスキャンを行い、被災前の風景や音を含む生活環境のアーカイブに取り組んでいる。今の街を考える手掛かり、また発災後の被災者の喪失感を和らげる手掛かりとしての活用を想定し、子ども向けワークショップなど多面的な展開も模索している。

【地域課題への提案学生ワークショップ（摂南大学生＋チュラ大学建築学部学生）】当研究室では、タイ王立チュラロンコン大学の建築学生とともに、タイ中部で地域課題の解決提案を行う学生ワークショップを8回実施してきた。この関係を活かし、同様の取り組みを日本で試みる。海外視点による観光提案や、建築学生による街の分析にもとづく居場所づくりなどを想定している。

産学連携・社会連携へのアピールポイント

自治体や住民の皆さんが抱える問題解決に建築都市デザインの視点から学生らとともにご支援できればと考えます。委託ではなく、共同研究、共同開発のスタンスで模索しながらゴールできるスタンスで連携できればと思います。実施期間やスケジュールなどは、大学行事や学生の授業などを考慮いただく必要がございます。

研究者総覧（稲地 秀介）

URL：https://gyoseki.setsunan.ac.jp/html/100001131_ja.html

